

郡山市震災後子どものケアプロジェクト

ペッズキッズこおりやまの運営に関する検討会

日時：平成24年9月8日（土）

午後2時～

場所：障害者福祉センター会議室

次 第

1. 開 会

2. 自 己 紹 介

3. 趣 旨 説 明 リーダーの指名

4. 議 題

5. そ の 他

6. 閉 会

郡山市震災後子どものケアプロジェクト

ペップキッズこおりやまの運営に関する検討会

趣旨等説明資料

担当：マネージャー 菊池信太郎

1. 郡山市子どもの現状
2. 震災後子どものケアプロジェクト設立について
3. 子どもたちの遊びと運動について
4. PEP Kids Koriyama 設立の流れ
5. PEP Kids Koriyama の存在の意義
6. PEP Kids Koriyama の方向性
7. PEP Kids Koriyama の現状と問題点

資料

- ①全体資料
- ②運営委員会組織図
- ③PEP 事業 H24 年度目標
- ④PEP 長期事業目標
- ⑤PEP 関係者へ オープンに際して
- ⑥東日本大震災記念郡山ドーム構想

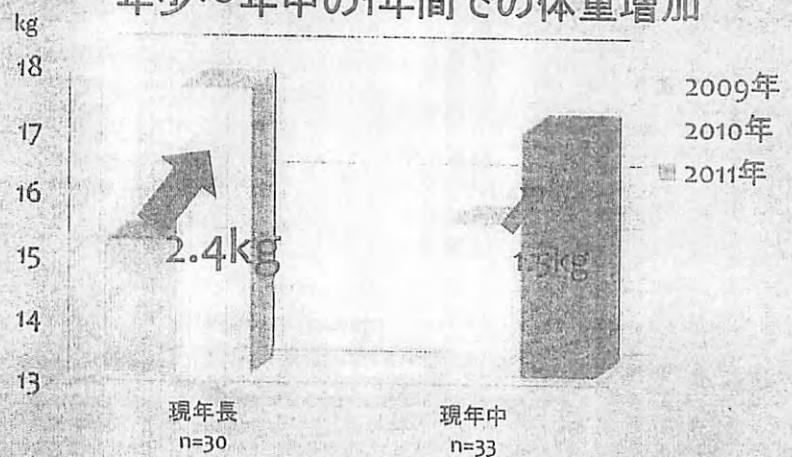
PEP Kids Koriyama運営 検討会

郡山市震災後子どものケアプロジェクト
マネージャー

菊池信太郎

ある私立幼稚園での体重測定

年少～年中の1年間での体重増加



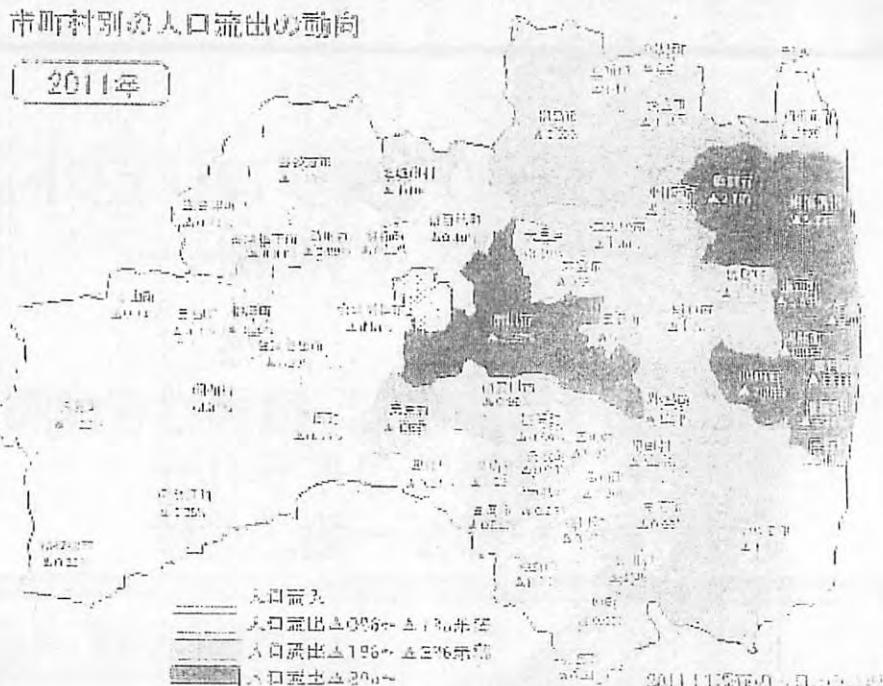
学校教員からの不安の声 —子どもの心と体の健康について—

屋外で遊べないストレス	90	84	64
運動不足による体力低下	76	79	85
余震の恐怖によるストレス	58	33	29
PTSDの疑い	21	10	10
風評被害による将来的ないじめ	15	8	6
震災後のストレスによると思われる不登校	13	7	6
震災後のストレスによると思われる反社会的行動の可能性	3	6	3

単位(%)

市町村別の人口流出の動向

2011年



郡山市震災後子どもの 心のケアプロジェクト

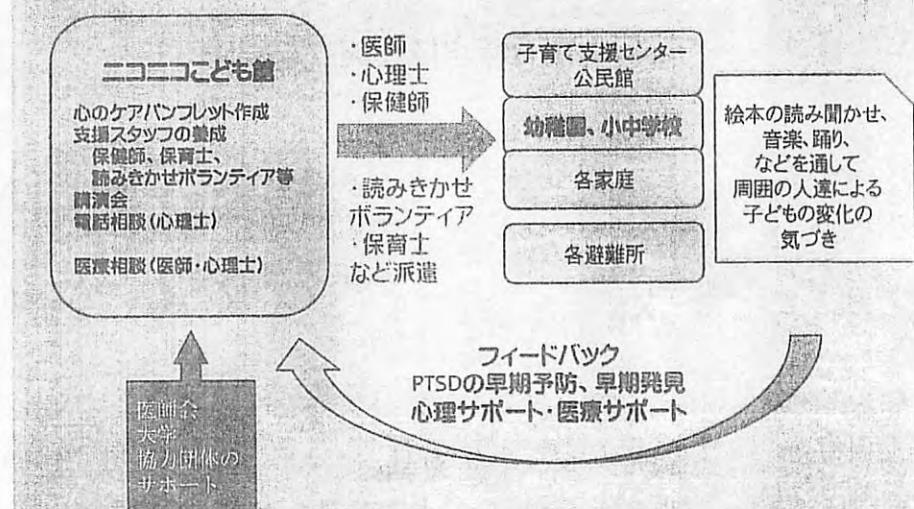
子どもの心のケアプロジェクト —3つのKey Words—

統一性 :目的意識、重要性を認識
構造化 :地域でのモデル化
継続性 :忘却が一番の危険

子どもたちを守るために
—PTSD防止の3つの目標—

- 居場所(遊び場)を作る
- PTSDの早期発見
- 地域が子どもを守る

郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト



プロジェクト活動内容

- ・絵本の読みきかせ
- ・心のケア
- ・子ども向けイベント開催
- ・運動・動き講習
- ・放射線・子どもの健康に関する講演
- ・子どもたちの現状調査と対策

読みきかせ活動

- ・市内の読みきかせボランティア
- ・ニコニコこども館、公民館、学校等
- ・ビックパレット
- ・熱海温泉地域
- ・絵本の寄附募集

読みきかせ



心のケア活動

- ・渡辺久子医師、臨床心理士
- ・各種講演会、ワークショップ、個別相談
- ・リーフレットの作成、配布
- ・保健所での窓口、電話相談

お子さんの不安を
きんであげましょう！



平成19年1月14日㈬市立鶴賀保育園火災事故より私たちの三者は
やむを得ず、この事故からお子さんを保護を受け入れた。
やむを得ない場合の責任を負は、もはやできることでい
うござりません。お子さんをもつてお子さんを守るためにも
お子さんと一緒にいることをお守りください。

市立鶴賀保育園
火災事故によるお子さん保護について

お子さん
保護について

市立鶴賀保育園
火災事故によるお子さん保護について

お子さんを抱き「ぬましょう！」

おとうさんは不安な時に「ぬましょう！」と言おう。

- ・間違つてぶつかつた時などは「ぬましょう！」
- ・からだになつたり
- ・よく寝てね」とおしゃべりを聞かせながれ
- ・まごとつけて、お子さんを安心させながれ
- ・おひらひらと乱暴にさせて



このような時は抱きしめて、
何度も「大丈夫」
と言ってあげましょう！

「あなたは悪くないよ」と 言ってあげましょう。

「あなたは悪くなかった」
「あなたの心」「起き心地」などや、「どうやれば
ひとりでいられるだけ」「自分でいるがいい」と思われる
言葉を口にすればお子さんをいたずらと見立てて
「あなたは悪い」と思ってはならない。



お子さんの話をよく聞きましょう

お子さんが何か話をしているときは
「つかな」または「うな」と聞いてあげたり。



自分たちの
リラックスと
こどもへ
の対応



Koriyama

室内運動講演会・研修会

・講師 チーム『PEP Up Koiyama』

中村和彦先生(山梨大学)

東京・山梨 動きの研究会

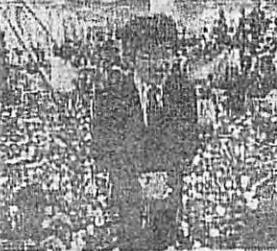
・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭対象

・遊びと運動の講話

・室内で行える体を使った遊びの研修

・毎月一回開催(今月 第10回)

待ってた 室内遊び場



小児科医による講演会など

- ・市内向け（放射線・子どものケア）
 - 保育所・幼稚園・小学校 31回
 - 市施設等 17回
- ・市外向け（郡山の現状報告）
 - 全国各地 15回
 - 論文投稿 10編

プロジェクトの成果の秘訣

- ・行政・民間・専門家のコラボレーション
 - 行政=組織的に広く行える、周知が行き届く
 - 民間=柔軟な発想がある、迅速性がある
 - 専門家=知識、経験がある、説得力がある

これからのこと

- ・温度差、意識の差をどうする？
- ・風化し、忘却されていく
→これでいいの？
- ・子どもに安心・安全な
『遊び場』・『運動場』を作る
- ・長期的な子どもの体と心の調査

郡山市震災後子どものケアプロジェクト

- ・子どもたちの育つ環境を整える
- ・子どもたちの現状を把握する
- ・からの子どもたちの育ちを考える
- ・子どもたちの心と体を育む



より包括的、組織的な枠組みと長期的な取り組みが必要！

郡山市震災後子どものケアプロジェクト

新たに組織化

子どもたちの心の現状は？

- ・現在の子ども、保護者的心(意識)の状態は?
受けたストレスの程度は?何が問題か?
→アンケートによる状況調査
- ・個別の対応、保護者的心のケア
- ・風評払拭と、差別の予防

子どもたちの体の現状は？

子どもたちの体の状況

- 運動不足(体力低下・運動能力発育不足)
→現在の運動能力調査、能力増加プログラム

肥満(または体重増加不良)

- 食生活環境調査、この環境下での食育
(大学、関係機関と協力しての調査)

子どもたちの心と体の調査

- ・体の状態:幼稚園体重増加(資料②)
- ・心の状態:子どもの強さ研究(資料③)

- 4~15歳の市内の子ども全員調査計画
- ・運動能力調査→小中学校 体力テスト
- ・生活環境調査→未
- ・栄養(食生活)調査→未

新体力テスト実施へ

四月一日から市内全小中学生で調査

運動不足 市内全小中学生で調査

市内初の試み

市内初の試み

心身の影響分析

新体力テスト実施へ

夏のキッズフェスタ



遊び場設立準備委員会

・目的

屋内型の大規模遊び場を設立し運営

オープン後も継続的に運営に関与する
(NPO的な組織への移行)

→現在はPEP運営委員会に組織変更

準備委員会設立の背景

子ども達の遊び場(居場所)・運動場を市内に設置するための運営組織発足を考えていた。

モデルとして昨夏行った、『夏のキッズフェスタ』が市民の好評を受けた。また、趣旨に賛同された(株)ヨークベニマル大高善興社長から、いち早く施設を設置するためのご協力を頂けることになった。

ただし、受け皿となる組織がなく、設置が急がれた。そこで、地元雄志で受け皿となるべく組織を設置し、大規模遊び場の設置に向けての準備を開始した。

平成23年9月12日発足。

準備委員会名簿

委員長	菊池信太郎	(医)仁寿会菊池医院 副院長	敬称略
事務局長	伊藤清郷	(株)陸奥測量 社長	
委員	菊池亮介 太田善雄 今泉壮規 佐藤祐子 橋本陽子 阿部直樹 オブザーバー	(株)蔵場 社長 (財)太田綜合病院 法人運営部 (学)今泉学園 双葉第二幼稚園 (有)佐藤和司商店 (株)柏屋 青い窓 福島県体育協会 アスレチックトレーナー	
	野口雅世子 小林宇志	郡山市こども部こども支援課長 郡山市総合政策部まちづくり政策課	

PEP Kids Koriyamaの目的①

子どもたちの遊び場として…

- ・安心安全な環境
- ・育ちに必要な“遊び”的コンテンツを提案する
- ・質と量を担保する
- ・体を使う“うごき”的重要性を認識する

PEP Kids Koriyamaの目的②

日本および世界へ向けて…

- ・幼小児の子どもの運動と遊びの一つのモデル
- ・日本における“遊び”的復活
- ・健康的な体作りのための運動センター
- ・原発事故後の対応策モデル

PEP Kids Koriyamaの目的③

子育てにおいて…

- ・保護者が子どもの育ちを実感する
- ・子どもたちのコミュニティーを形成する
- ・母親同士のコミュニティーを復活させる
- ・子ども(幼小児)たちの運動と遊びの総合センター

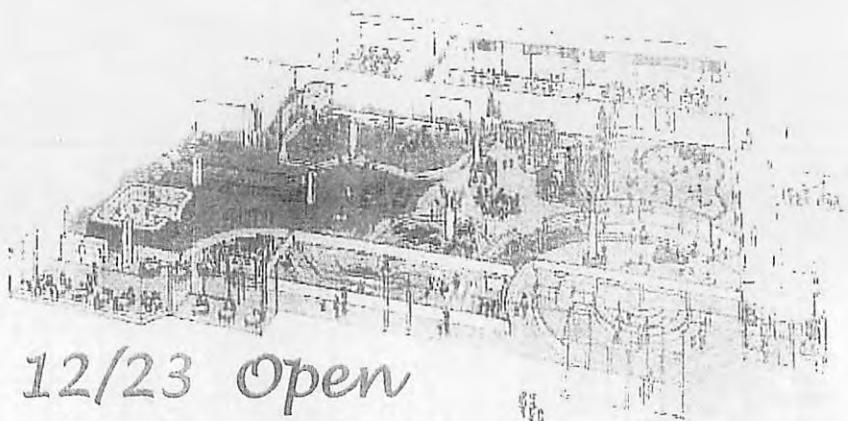
PEP Kids Koriyamaの基本コンセプト

- ・外遊びを室内で実現
→砂場、水遊び、三輪車
- ・体を使った遊びで、運動不足解消、能力向上
→理論に基づく運動の提案、指導
- ・遊びを通しての子育ての見直し
→子どもの育ちを考える、親の遊び
- ・料理をする
→食を通して、健康を考える

PEP Kids Koriyamaの特徴

- ・遊びをサポートするプレイリーダー常駐
→単なる“遊び場”ではない
- ・最低限の社会性を身につける
→挨拶、言葉遣い、秩序など
- ・保護者に子育て・育ちを再認識してもらう
→一緒に遊ぶ、子どもの変化を実感
- ・心のケア、運動発達、食育研究・研修の場
→セミナー開催、運動発達研究を行う

東北最大級の屋内型遊び場 『PEP Kids Koriyama』



「放射線恐怖病」脱却のための心と体のリハビリテーション施設
郡山市横塚 東部幹線道沿い

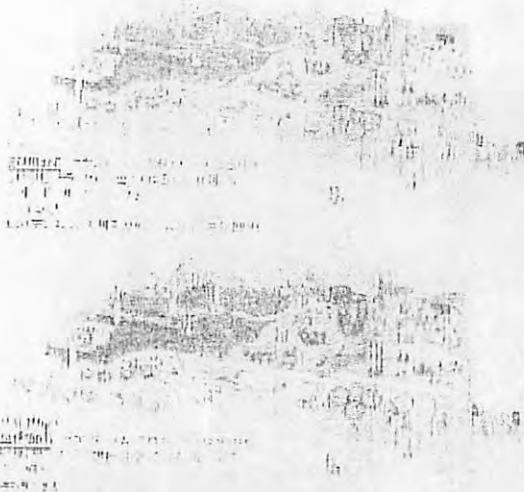
PEP Kids Koriyama設置に関して

- ・土地 YB社から市への無料貸与
- ・建物 YB社で修復、市への無料貸与
- ・遊具 YB社から市への寄付
- ・家具、一部設備 関連企業からの寄付
- ・運営 運営スタイル→準備委員会中心で市と協議
オープン後～委託まで→市こども部支援課
最終的にNPO法人等の組織へ委託
キッチンの一部費用、ベンダーは提供
継続的にボランティアのコンサルタントを受ける(予算化)

運営に関して① スタッフ

- ・単なる遊び場ではない
- ・遊び場にはプレイリーダーが常駐
- ・プレイリーダー=遊びの促し、安全確保
- ・運営しながらプレイリーダーの養成が必要
- ・プレイリーダーチーフとして阿部直樹氏任命
- ・親子での遊び→遊びを通した気づき
- ・食の楽しさを知る
- ・子どもが楽しんで、また来たいと思う施設を目指す
- ・低線量放射線下でのモデル施設

運営に関して② プレイリーダー



4

子どもが夢中になるに遊ぶには?
夢中にのめり込むには?

アドバイザー：山梨大学大学院 中村和彦先生より

- ・いろいろな動きの要素が入っている
 - ・競い合う(その場で勝ち負けがはっきりする)
 - ・上手になったことを実感する(はじめは下手)
 - ・技のコツをつかむ(ねらい目がわかる)
 - ・友達と同調(シンクロ)する
 - ・普段と違った感覚がある

逆さ感覚・回転感覚・抗重力感覚等

等問題概要

- ・休館日 第3土日、年末年始→第3 水・木
 - ・開所時間 午前10時～午後9時頃までが理想
→午前10時～午後6時
 - ・キッチン 15人／テーブル×4クールを想定
 - ・入場料 無料でスタート
 - ・会員登録 個人情報のため登録制度なし
 - ・一般ボランティア 保険等の加入義務必要

10

プレーリーダーの役割

アドバイザー: 山梨大学大学院 中村和彦先生より

- ・子どもがいきいきと遊ぶことのできる環境作りを
 - ・子どもの興味や関心を引き出す遊び場の整備
 - ・遊び場の状況に応じた子どもへの声かけ
 - ・一緒に遊び、子どもが厚い信頼をよせる相手に
 - ・子どもの代弁者になる

PEP Kids Koriyamaの効果

- 6か月で約20万人の親子が来場
→全国で、子ども対象とした施設にはない
- 遊び場設置のための県の予算枠を新設
- 他市、被災地で同様な施設設置の見本
- 子どもの遊び、運動の必要性が再認識された
- 郡山市の取り組みが評価されている
- 明らかに、子どもたちの笑顔が増えた

PEP Kids Koriyama 4事業

- PEP Active
体を使った動きの習得、体力Up
- PEP Kitchen
食育、食べ物の尊さの学習、作る喜び
- PEP Learning
寺子屋塾(実験、学習)、伝承遊び
- PEP Counseling
子育て相談、心のケア、小児科医の相談

PEP=地域の子育て・教育総合センター

全天候型運動場（例）



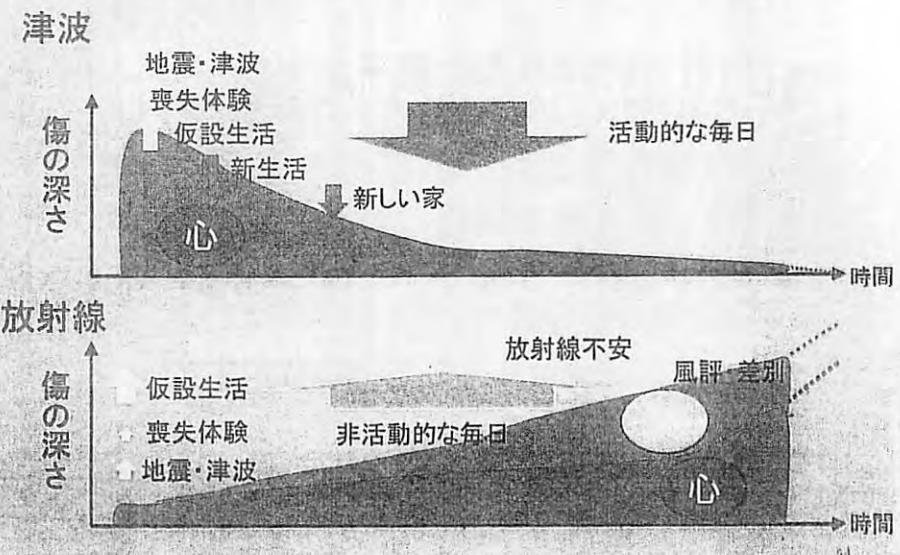
PEP Kids Koriyamaの理想像①

- 利用者のニーズにあった運営
→開館日、時間、アクセス
- 利用者が飽きないための運営
→遊具の入れ替え、各種イベント開催
- 繼続的な運営
→入場料の徴収、企業のサポート
- PEP養成のプレイリーダーを各地へ派遣
→専門職等からの指導と、社会の認知向上

PEP Kids Koriyamaの理想像②

- ・郡山の子どもたちが日本一元気に
- ・全国に遊び、運動の重要性を発信する基幹
- ・子どもの育ちに新たな地域の取り組みモデル
- ・第二のPEP設置、mini PEPの設置
- ・次のステップ(ドーム構想)との連携

子どもの心と体の傷



放射線低線量環境下での子育て5事業

PEP Kids Koriyama 運営	運動発達 支援	地域の子育 て支援	放射線対 策
カリキュラム 整成・派遣 キッズスタッフ 整成・派遣	運動場設置 遊び場整備 体力増進・ 体の発達観察 啓発活動	環境対策支援 母親達の コミュニティ作り 大人の心のケア 読みきかせ支援	地域への啓発 健康相談 医療機関・医師 会との連携

NPO 郡山ペップ子育てネットワーク

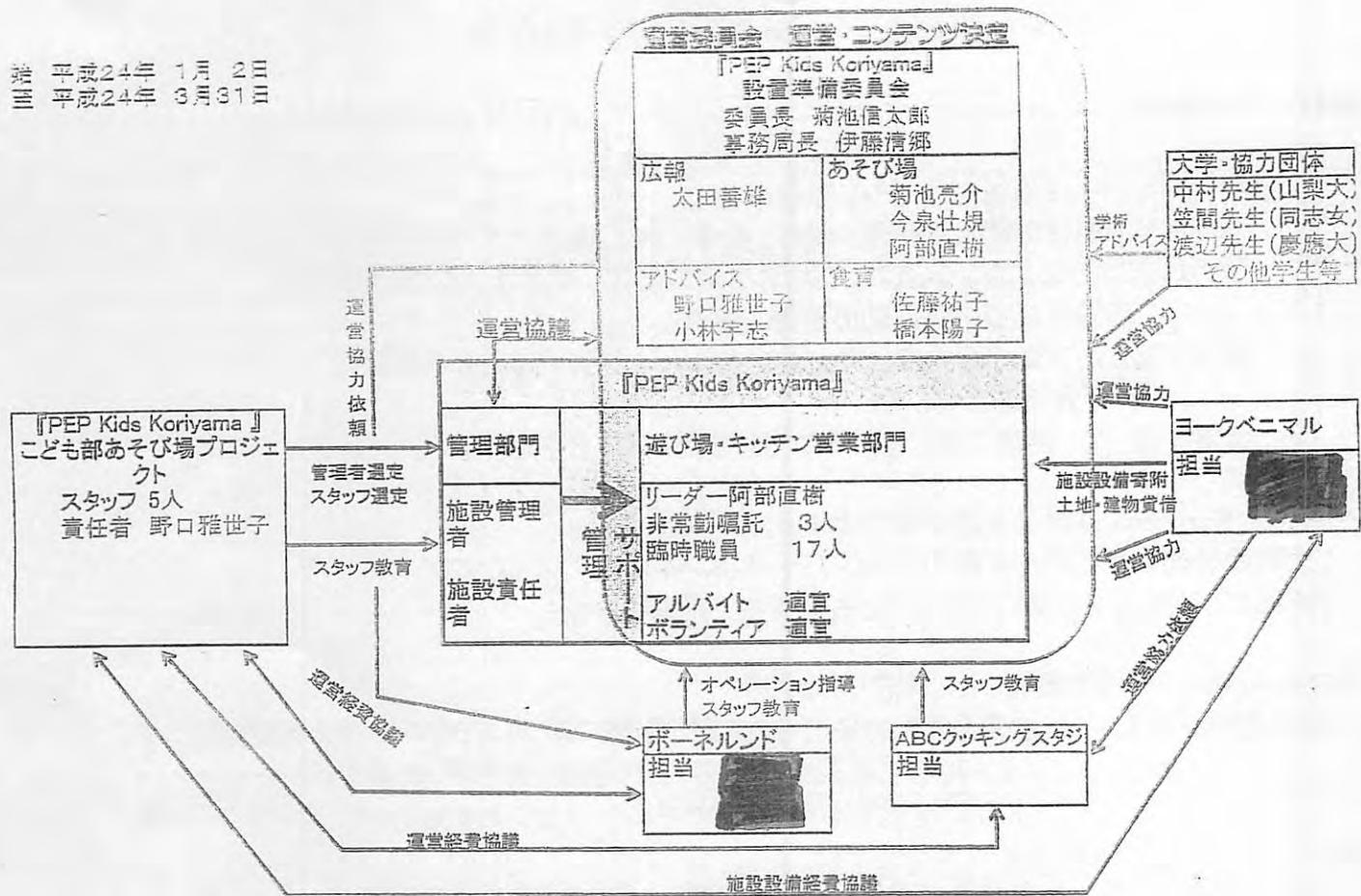


『郡山の子どもたちを 日本一元気に！』

郡山の取り組みに引っ張られ、
福島県の子どもたちが皆
元気になることを願って！

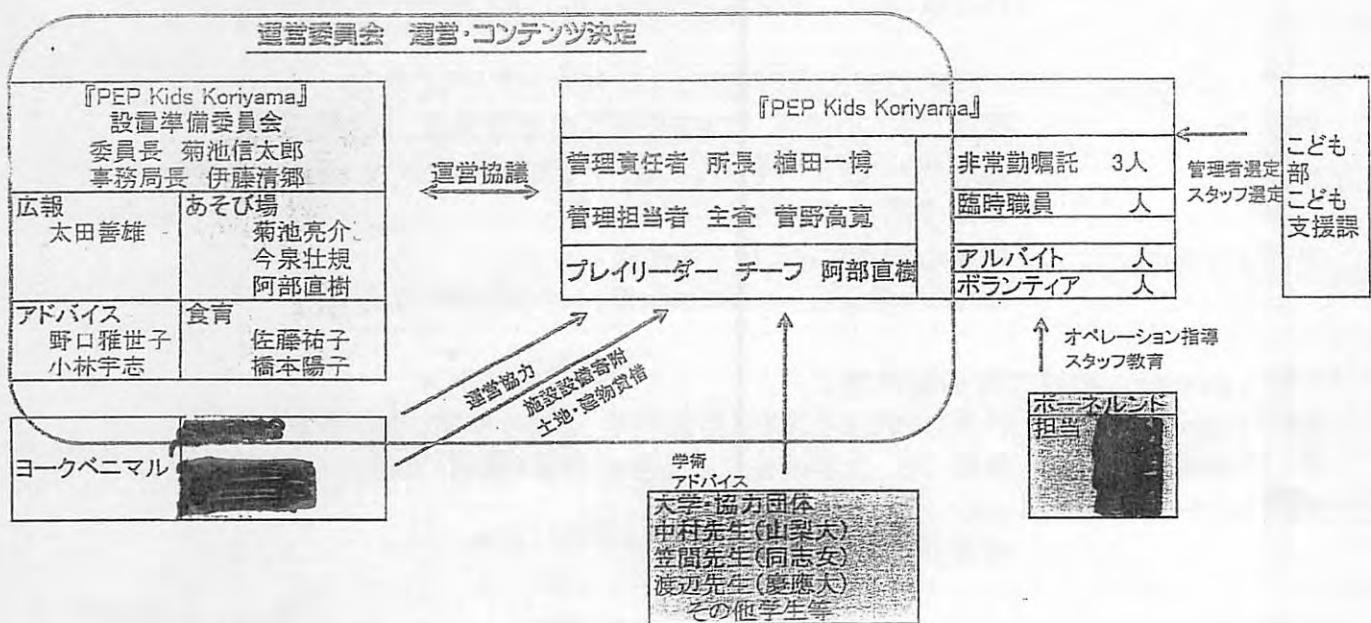
PEP Kids Koriyama 1 開設

第三章 計算機的運算



始 平成24年 4月 2日
至 NPO委託まで

「PEP Kids Koriyama」組織圖



H24年度 PEP Kids Koriyama 活動目標

基本的確認事項

- ・遊び場コンセプト 『地域が子どもを守る』
 - 外できない遊びを室内で実現 特に、砂場、水遊び
 - 運動の基本となる遊びを通して、運動不足の解消、運動能力の解消を図る
 - 理論に基づいた運動の提案、指導
 - 遊びを通した子育ての見直し:子どもが遊ぶとはどういうことかを認識
 - 親が見本を示す
 - 食育を通して、健康の楽しさの一つである食べることを考える

PEP Kids Koriyama は単なる遊び場ではない。

『放射線恐怖病からの心と体のリハビリテーション施設』

『地域が子どもを守り育てる総合こどもの育ち支援ステーション』

☆PEP Active 動きを重視した、体作りのエリア

- PEP運動クラブ 会員登録した子どもたちが、理論に基づいた動きの基本を習得し、PEP利用することによって、どの程度”動きが”改善するか、体力が増強するかを検討(PEP Up Koriyamaプロジェクトに連携)
- PEP大運動会 参加者を募集し、教種の動き、運動競技に参加し楽しむ(賞品あり:PEP支援基金)
- PEP Adult 大人の参加者を募集し、メタボ脱却を図る

☆PEP Kitchen 食育を通して、食べ物のありがたさ、作り、食べる楽しさを体験するエリア

- 食育講座 栄養士の指導の下、子どもの体作りに必要な栄養知識を身につける
- 食を核にして、生きる力を育む、わくわくモーモースクール

☆PEP Counseling 医師、臨床心理士、保健師による大人と子どもの相談

- PEP Doctor 医師(特に小児科)による子どもの健康相談、放射線相談
- 医師(特に整形外科)による、子どものスポーツに適した体作りと事故予防
- PEP psychologist 臨床心理士による何でも相談
- ニコニコ相談会、ニコニコ教室、NPO西神戸の活動

☆PEP Learning 地域の寺子屋教室

- PEP science school 教員OBによる理科(自然科学、実験)教室、数学教室
- PEP homework 教員OB、大学院生による自主学習(宿題)支援
- PEP inherit traditional play 昔遊びの伝承

☆PEP Deliver PEP のスタッフが、学校、幼稚園、保育園等に出かけ、遊びを提案する

- PEP play leaders PEP のプレイリーダーが各地で遊びや動きを提案

PEP Kids Koriyama(郡山市元気な遊びのひろば)長

PEPの基本的理念		『地域が子どもを守り育てる総合こどもの育ち支援ステーション』地域が 『放射線恐怖病からのか心と体のリハビリテーション施設』	
PEP Kids Koriyama のコンセプト	遊び場	外できない遊びを室内で実現 遊びを通して、運動不足・運動能力低下の解消を図る 親が見本を示す	遊びを 理論に
	キッチン	食育を通して、健康の楽しさの一つである食べることを考える	
	パッグヤード	医師や臨床心理士によるカウンセリング	遊びを 学びを
スローガン		郡山の子どもたちが日本一元気に! 世界に届け、PEP Kids Koriyama!	
PEPの存在意義の浸透	5年後(平成28年度)到達目標		平成23年度
	郡山のこども達が日本一元気に		オープン
	PEPが世界に知れ渡る		海外向
	スタッフ		チーフ、嘱託3人、臨時17人
			アクティビティ
	営業時間		午前10時~午後6時
セプトの 到達目標と実 践	外遊びを室内で実現	遊びや運動の質が保障されてい	
		前例のない施設であることが認識された	
	砂場の有用性が再認識される		年1回、
	年間40万人の利用		年1回、
	運動不足解消・運動	PEPを利用することが能力向上につながることが証明される	
		PEP利用当日は、食欲、睡眠が改善されることが認識された	
	理論的運動の提言		未設定
	子育ての見直し		パネル提示
	食べることを考える	CREDOが守られる	CREDO
カウンセリング	食べる	食が健康の大変な要素であるこ	
		オープン	
	カウンセリング	多彩なメニュー(調理方法等も)が用	
		月1種類のみ	
	学びを通した地域の	幼少期から中学生まで利用でき	
		限定	
		年間3万人の利用	
NPO設立の目的	月2回、小児科医によるミニレクチャー		平均300人/月
	未開催		平均900人
第1条 この法人は、東日本大震災後の持続する低線量放射線環境下に生きる子どもたちのため、地域 遊び、運動する環境の提供と整備、子どもの心のケア、子育てのアドバイス、放射線や関連する健康被			

期事業計画

NPO案

2012年5月23日

郡山の子どもたちを元気に遊び、学び、育てる中核施設である。
子どもたちが日本一元気になるための最初のステップである。

整した子育ての見直し:子どもが遊ぶとはどういうことを認識
に基づいた運動の提案、指導

整した地域の子育て

年度	平成25年度	平成26年度
一の確保	スタッフも子どもも皆笑顔	第2、第3のPEPの見本となる
保育園との連携(団体利用に発信(HP等)	園のPEPの常時利用がある 日本のモデルとして示される	PEP利用が園の日課になる 海外からの視察がある
チーフ以下常時13人	NPOに完全移行	専門知識をもったチームに
時5人(NPOへ移行時)	専門知識を持ったチームに	PEP外へ派遣される
ーを理解する	全員がプレリーダーになる	PEP外へ派遣される
寺~午後9時	入れ替えなし	
大型遊具が入れ替わる	年2回、大型遊具が入れ替わる	年2回、大型遊具が入れ替わる
PEP大運動会開催	月1回、PEP大運動会開催	月1回、PEP大運動会開催
イベント開催	月2回、イベントが開催される	月2回、イベントが開催される
サンドアート(砂場祭)が開催	年6回、サンドアートが開催される	月1回、サンドアートが開催される
年(オープン効果)	30万人/年	35万人/年
利用により、運動面、生	PEPで不得意分野の運動能力	
改善が証明される	向上が図られる	*
	スポーツテスト得点の改善に寄与す	肥満、運動不足解消施設になる
の存在が浸透する	PEPが子育てのモデルになる	
との意義が示される		
によるレクチャーが開催され	地域ぐるみの食育講座開催される	
種類のみ	月4種類	選択可能
による利用仕分け		
人/月	平均1500人/月	平均2000人/月
小児科医によるミニレクチャ	小児科医によるレクチャーがあることが浸透	
小児科医による相談会	小児科医による相談があることが浸透	
催	PEPにトレーナーがいることが浸透	
催	PEPで怪我の予防が図られる	
相談会開催	PEPに相談のために訪れる子が多い	地域の寺子屋的存在になる
科学数学教室開催される	週1回、科学数学教室開催される	
遊び等教室開催される	週1回、音遊び等教室開催される	

の大人達が子どもたちをどう守り、どう育てていくかを考え実践する組織である。特に、子ども達が
に関する知識の啓発活動等を行うことを目的とする。

『PEP Kids Koriyama』 関係者、スタッフの皆様へ

PEP Kids Koriyama 設置準備委員会委員長 菊池信太郎

12月23日が目前と迫りました。少ない時間の中で、これだけ大きな事業を展開するに当たり、関係諸者には大変な御迷惑と御手数をおかけすることを、深くお詫びいたします。

オープンを前に、今一度、この施設についての経緯と、確認をしたく思います。

ご存じのように、平成23年3月11日の東日本大震災、そしてそれに引き続く放射線による健康被害の恐怖は、私たちの生活を根底から覆し、次世代を担う子ども達の生活環境を奪いました。子ども達にとっては、“動き回り”、“体を使って遊ぶ”ということがすべての基本です。そして、子ども達にとって、毎秒毎秒が育つために貴重な時間です。その時間を奪った私たち大人の責任は重いことを自覚しなくてはいけません。

さて、そのような中、3月29日に郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクトが発足しました。郡山市、郡山市教育委員会、郡山医師会が協力し、子どもの心を守る地道な活動をスタートしました。半年経過し、様々な事業を多くの方々の協力により行ってきました。子どもに関する震災後の多くの事業は多かれ少なかれ当プロジェクトが関与していると自負しています。そして今回のPEP Kids Koriyama設置のきっかけもこのプロジェクトから始まりました。

5月下旬、あるきっかけからボーネルンド社との面会時間を獲得し、急ぎ同社に郡山の現状に関するプレゼンテーションを行いました。私が感じている子ども達にとっての遊びの必要性、大人達が子どもにすること、地域が子どもを守るにはなどの話し合いの中で、私とボ社との思いが一致し、「夏のキッズフェスタ」をボ社の全面協力のもと行うことができました。そして、その企画がその後の試金石になるようと決めた願いが、ヨークベニマル社長からのご厚意につながった次第です。

このPEP Kids Koriyamaには、そうしたこれまで関わってきた多くの方々の思いが結集されています。そして、その思いがあつて初めてなり得た施設です。どうぞそのことだけは忘れないで頂きたいと思います。この施設は、単なる遊び場ではありません。私たち地域の大人達が、自分の地域子ども達を必死に守り、そして育てていくための場です。ただ資金があって、建物をた

て、遊具を据えただけでは単なる遊び場です。そこには、強い確固とした魂を込めなくてはなりません。PEP Kids Koriyama に関わるお一人お一人が、その魂を育てていく責任と、この施設の行く末を左右していくことを意識して頂き、各々が最高のPEPMEN[※]になって頂くことを切に願います。

この施設の繁栄は、郡山の、本当の意味での復興の第一歩になることは間違ひありません。

遊び場コンセプト 『地域が子どもを守る』

- ・外できない遊びを室内で実現:特に、砂場、水遊び
- ・運動の基本となる遊びを通して、運動不足の解消、運動能力の解消を図る:理論に基づいた運動の提案、指導
- ・遊びを通した子育ての見直し:子どもが遊ぶとはどういうことかを認識、親が見本
- ・食育を通して、健康の楽しさの一つである食べることを考える

この場を借りて、下記を示します。

PEP CREDO (ペップクレド:ペップの信条)

For Staff

1. PEP Kids Koriyama 設置までの経緯を理解する
2. PEP Kids Koriyama のコンセプトを忠実に実現することを目標とする
3. 主役は子ども達とその保護者であることを忘れない
4. そこに関わるすべての人は、みな同様にPEPMENと思われるこことを意識する

For Children

PEP Kids Koriyama では、

1. げんきよくあしさつをする
2. おたがいのしくあそぶ

3. きたないことばはつかわないようにきをつける
4. スタッフのいうことをまもる

For Leader (引率者)

1. 大人は子どもの見本であることを忘れない
2. PEP Kids Koriyama 内ではスタッフの指示を遵守する
3. PEP Kids Koriyama 内では、汚い言葉の使用、罵声や叱責をしない
4. 常に子どもの動きに注目し、子どもの成長を肌で感じ、気づいてください

※PEPMEN (PEPMAN&PEPWAN) : 子どもを守り育てる PEP なプレイリーダー。

平成 23 年 12 月 19 日 菊池信太郎

『東日本大震災記念郡山子どもランド（仮称）』建設喚願書

目的：全天候型の屋内運動場、遊び場設備を郡山市内に建設する

背景：未だ放射線被ばくの恐怖が続く中、市民の不安や動搖は益々増加している。

特に子どもを持つ保護者の不安は計り知れないものがある。

校庭の表土削除や体育館等の活用により、何とか子どもたちの運動場が確保されつつあるが、十分と言うにはほど遠いのが現状である。身体や運動能力の発達、心の発育にもっとも重要な時期を、このような環境で過ごしたことによる子どもたちへの影響が、今後懸念される健康被害の最重要事項である。

保護者が安心、納得して子どもたちが運動や遊べる環境は、もはや屋内でしかない。セシウムの半減期は30年であり、今後もしばらくこの状況が続く以上、子ども専用の屋内運動場、遊び場の整備が不可欠と思われる。

同時に、このような状況下でも、子どもたちの健康を守りながら我々の生活を全うする決意を、市民、全国に示すことが風評被害への唯一の抵抗である。

対象：市内の全子ども達

概要：ドーム型（または類似構造）の屋内運動場設備

トラックフィールド（200m級）と人工芝（ミニ野球、サッカー等）の複合型グラウンド
屋内プール、トレーニングセンター

→体育授業、運動会、児童対象の各種競技大会、体力増進、運動能力増進の指導

屋内遊び場：幼児を対象とした運動遊具、砂場、子育て広場

その他：研修室、駐車場

建設資金：全市民、全国からの寄付を募る、国からの補助金等

運営：市、または新規NPO法人など

備考：原発が落ち着いた後も、雨天、冬期の運動増進に有効である

子どもたちの生活環境は時間を追うごとに悪化しているように感じる。
早急に、放射線とともに生きていく体制作りと、子どもたちの安心安全な運動場、遊び場の建設を喚願する。

平成23年6月11日

医療法人仁寿会菊池医院 副院長 菊池信太郎
陸奥測量設計株式会社 代表取締役 伊藤清郷

利用者状況

PEP Kids Koriyama 利用者数(12/23~8/31)

(単位：人)

PEP アクティブ			PEP キッキン			総計		
大人	子ども	計	大人	子ども	計	大人	子ども	計
119,133	139,117	258,250	2,388	8,140	5,528	121,521	142,257	263,778

PEP Kids Koriyama 市外利用者数(12/23~8/31)

市外利用	中通り	浜通り	会津	県外	福島	二本松	本宮	須賀川	田村	三春	白河
27%	83%	5.2%	6.8%	5%	13%	7%	8%	21%	7%	7%	6%

PEP Kids Koriyama が抱える課題

2011年12月23日にPEP Kids Koriyamaがオープンいたしました。その際には、郡山市、ヨークベニマル、ボーネルンド、菊池信太郎先生を中心とした設立準備委員会など、非常に多くの方々の強い思い、『魂』がこもった素晴らしい施設でした。我々プレイリーダーは、その強い『魂』を引継ぎ、運営していくことを決心した日でもありました。

しかし、運営していくにつれ、様々な人や組織が関わることによって、施設の考え方、方向性が一致できず、さらにお互いの考え、理想を尊重できず、大人の都合での運営になってしまいました。

このような状況に巻き込まれたのが、現場のプレイリーダー達であり、利用する子供たち、保護者の方々でした。

大人の都合によって失われた遊びの空間が、また大人の都合により初心を忘れ、『魂』がない施設になろうとしています。

今回の会議を通して、様々な方々が関わり、郡山市全体で子どもたちを守れるよう、さらに PEP Kids Koriyama を通して、次のステップに進めるよう、同じ目線で物事を考え、共有し、意見を交わし合い、将来を担う子供たちを守る環境を作り、支えていきたいと考えます。

PEPスタッフが保護者からよく聞く話

アクティブ

- ・震災後、食欲がなかつたのが、PEPに来るようにになって食欲が出て、よく食べるようになった。
 - ・物を人に貸せるようになった。物を人に譲れるようになった。
 - ・人に声をかけられるようになった。(コミュニケーションがとれるようになった)
 - ・寝つきが良くなり、夜泣きがなくなった。
 - ・靴を並べられるようになった。
 - ・PEPの着替え遊びの服をハンガーにかけられるようになった。
 - ・友達ができた。(子どもだけでなく、親同士の友達もできた)
 - ・時間を意識できるようになった。
 - ・母親にべったりで遊んでいた子供が、母親から離れて遊ぶ光景も見られるようになった。
 - ・風邪をひくことが多かった子が、風邪をひきにくくなった。
 - ・いろいろな遊びを通して以前はできなかつたことができるようになった。
 - ・年下の子を気遣つたり、面倒を見れるようになった。
 - ・スタッフの名前を覚えるようになった。
 - ・PEPでの友達が増え、グループ遊びが増えてきた。(鬼ごっこなど)
 - ・誰に対しても(大人やスタッフに対しても)あいさつができるようになった。
 - ・片付けが自発的に出来る子が増えてきている。
 - ・笑顔が増えた。(子どもだけじゃなく、親も)
 - ・一人遊びしかしなかつた子が、スタッフや他の子ども達と一緒に遊ぶようになった。
 - ・会釈しかしなかつた親子があいさつをするようになってくれた。
 - ・力加減ができるようになった。
 - ・幅広い年齢の子が一緒に仲良く遊べるようになった。
 - ・自分の頭を使って自分なりの遊び方ができるようになった。
 - ・砂場を怖がって砂に入れなかつた子が、何度か利用しているうちに砂場で楽しく遊べるようになった。
 - ・順番に並ぶなどのルールが守れるようになった。
 - ・自分から積極的に動いたり話すようになった。(いろいろな動きを試すようになった)
 - ・思いやりを持てるようになってきた。
 - ・ごめんなさい、ありがとうを言えるようになった。
 - ・砂場で初めて水を使って砂遊びをすることができた。
 - ・三輪車に乗れるようになった
- 震災以前までは三輪車に乗っていたのに、震災後乗れなくなっていたことにPEPにきて気づいた。
今では以前以上に乗れるようになっている。
- ・身体が引き締まった。
 - ・PEPに行きたいと毎日のように言ってくる。
 - ・PEPに行くことがわかると玄関で先に靴を履いて待っているなど。

- ・日常の生活サイクルがよくなつた。
- ・今まで出来なかつたことができるようになった。
- ・朝ごはんを食べるようになった。
- ・スタッフが褒めてくれることで、うれしい、もっと褒めてもらいたいという気持ちから自分でやつていこうという意欲がわいているように思える。
- ・親として、子どもの変化や新しい一面に気づけることがある。

キッチン

- ・親子参加で初めて包丁を使った子どもが、家でも包丁を使うようになった。
- ・普段はあまり食事を完食しない子が、キッチンで自ら作ったものはしっかり完食するようだ。
- ・野菜が嫌いな子供が野菜を使ったキッチンを体験することで食べられるようになった。
- ・自閉症の子が参加した際に、普段より落ち着いて話を聞くことができた。さらに作業を90分やり遂げられた。
- ・親も見ていて楽しい。
- ・家で洗い物などの手伝いをするようになった。
- ・家では汚れるからという理由でダメと言っていたことが、PEPでは自由にやらせてあげられるから嬉しい。
- ・大きい子が小さい子の面倒を見るということが自然とでき、親が子供の面倒見の良さに気付き、驚いていた。
- ・親が気付くことが多い（楽しいことに夢中になっている姿、周りへの気配りなど）
- ・子どもが楽しい、また来たいと言ってくれている。
- ・2回目、3回目の利用の子がいる（楽しいからまたくるね。メニューが変わったらまた来るね。など）

エピソード

- ① 多くの方が PEP のコンセプトに感動してくれている。わざわざスタッフにありがとうと言ってくださる方や、スタッフと話しながら涙される方が多くいらっしゃる。
屋外の遊びを屋内で（砂場の環境、プランコの木の質感、PEP のグラフィックやデザインの意味など）
- ② 子どもの笑顔や元気に走り回る姿を久しぶりに見て涙される方や、子どもと一緒に走り回れることに親御さん自身が心底楽しんでくれている。
- ③ 新潟に避難していた時期は常に家で暴れていたのに、こっちに帰ってきて PEP で遊び始めてから暴れなくなった。
- ④ いわきから避難していて、三春の仮設にいらっしゃる方が三輪車にも乗れず、他の友達もできず、わがままだった子が PEP にくることで少しづつ落ち着いてきた。
- ⑤ 自閉症の子が、普段は初めての施設に行くと泣いてしまうのに、PEP では泣くことなく時間いっぱい遊んで行ってくれた。
- ⑥ 7歳のお兄ちゃんと3歳の弟がいて、よく弟が家で暴れてお兄ちゃんの顔を引っ搔いたりして仲が悪かったのが、PEP にくることで弟が家で暴れることもなくなり、PEP で手をつないで一緒に遊んだ

り、三輪車で二人乗りして遊ぶなどとても仲が良くなつた。

- ⑦ 今まで外の砂は汚いから触ってはいけないと娘に言ってきたお母さんが、PEP の砂場にきて、お母さんに「このお砂はさわっていいの？」と聞いてきたので、「ここのお砂はきれいだから触っていいよ」と言ってあげたときの娘の本当に嬉しそうな顔をみて、私は今まで娘のやりたいことを制限させててしまったんだと気づき、涙してしまつた。
- ⑧ 3月の読み聞かせのイベントの告知をしたあと、親御様から「ただ、遊ばせるだけでなく様々なことを考えてイベントを組んでくれてありがとう」というお声をいただいた。
- ⑨ 以前は途中で投げ出していたのが、PEPにきて遊ぶようになってから一つのこと夢中になり、最後までやり遂げられるようになった。
- ⑩ 三輪車に乗れないとあきらめていた親御さんに乗り方のコツを伝え、スタッフが補助したところ乗れるようになり、それをみた親御さんが「あきらめなければ出来る子なんだ」とわかり感動していた。その後、親御さんが子どもに積極駆け戻るようになった。
- ⑪ 自宅から一歩外に出ると人に驚いてお母さんから離れられず、買い物にも支障が出るほどの人見知りな女の子がいた。PEPでなんとか遊びを覚えてほしいと連れてきたが、人の多さに圧倒されまったく遊べなかつた。遊べなくとも何度も通ううちに慣れてきてお母さんから離れて遊ぶようになり、怖がっていた男性スタッフにも笑顔で手を振れるようになった。
- ⑫ 砂遊びの際に、水を使う子どもがいた。お母さんもやはり外の砂は不安で、さらに他の屋内砂場でも水を使えないで、PEPで初めて砂に水を入れることができた。最初は、砂に水を入れるとすぐに吸収されてしまい、なぜ水がなくなってしまうのか、その水がどこにいったのかをとても不思議そうに考えていたが、何度も繰り返すうちに水たまりになつた。その水たまりに足をいたれたときによく不思議な感触だったのかとても楽しそうに足でバシャバシャ遊び、お母さんに何度も水を汲んできもらつて初めての砂の感触、手触り、足触りを楽しんでいた。その光景をみたお母さんは非常に喜んでいて、この光景をお父さんにも見せてあげたいと本当にうれしそうに言つてゐた。